



ようこそ、いにしえの杜へ。



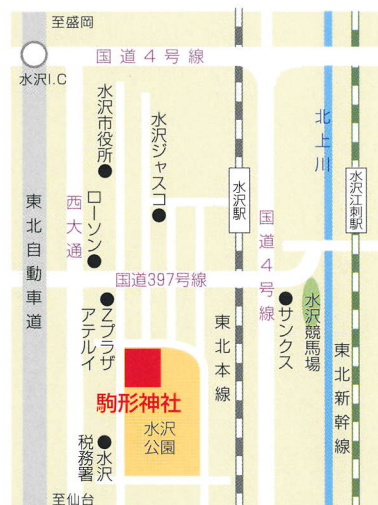
〔参拝のしおり〕

元国幣小社・神社本庁別表社・延喜式内社

陸中一宮

駒形神社

年 号	西 暦	経 歴
雄略天皇の御代	456年	上毛野胆沢公、駒ヶ岳山頂に駒形大神を勧請。
仁寿 元年	850年	文徳天皇の御代、駒形大神 正五位の神階に昇る。
貞観 6年	862年	清和天皇の御代、駒形大神従四位下(奥州最高の神階)に昇格。
天喜 5年	1057年	後冷泉天皇の御代、源頼義、義家父子 石田の地に塩釜大神勧請。
寛永 6年	1629年	初代水沢城主 留守宗利氏、塩釜神社を御造営。
明和 2年	1663年	7代水沢城主 留守村義氏、塩釜神社、現在地に遷座。
安政 6年	1859年	町内全焼による大火事により、愛宕社塩釜神社も焼焼。
文久 3年	1863年	11代水沢城主 留守邦命氏、塩釜神社を再興。(現在の駒形神社本殿)
明治 4年	1871年	駒形神社、国幣小社になる。塩釜神社は駒形神社の仮遷拜所となる。
明治 7年	1874年	塩釜神社は社殿大改修され、駒形神社の正式遷拜所になる。
明治 36年	1903年	駒ヶ岳山頂より御神霊を塩釜神社へ奉遷。塩釜神社は、別宮春日社に合祀。
昭和 8年	1933年	奉遷30周年記念事業として御社殿御造営、並びに境内整備された。
平成 15年	2003年	奉遷100周年記念事業として御社殿御造営された。



- 東北本線・水沢駅……………徒歩10分
- 東北新幹線・水沢江刺駅……………車で12分
- 東北自動車道・水沢I.C……………車で15分



元国幣小社・神社本庁別表社・延喜式内社

陸中一宮

駒形神社

〒023-0857 岩手県水沢市中上野町1-83 TEL0197-23-2851 FAX0197-23-2847



# 今なお多くの信仰を集める 武家ゆかりの陸中一の宮。

## 陸中一宮 駒形神社 御由緒

上古の代、関東に毛野氏族が台頭し、赤城山を霊山と崇敬し、赤城の神を祀つて上野平野を支配し、後に上毛野国と下毛野国に分かれた。上毛野・下毛野氏は関東に留まらず、勢力を北に延ばし、行く先々に祖国に習い、伏火山で、形のいい山を捜し出し、連山の中で一番目の高峰を駒ヶ岳又は駒形山と名付け、駒形大神を奉祀された。奥州の当地方にも及び、胆沢平野から雄姿を目にし、山頂に駒形大神を勧請し、駒ヶ岳と命名した。上毛野胆沢公という毛野氏の族によるものであり、時は雄略天皇の御代（四五六年）であった。

当社は貞観四年（八六二年）従四位下に神階を進められたのは、陸奥国胆沢城を創建し征夷大將軍として蝦夷地を平定した坂上田村麻呂による崇敬の念の篤かった事から始まり、この鎮守府の度々の上奏によるものであった。

駒形という名称は、古く赤城神社をカラ社と呼んだ歌が残っている。コマをカラと歌った。当時の朝鮮は高句麗に都があり、高麗朝時代であり、文化伝来のあこがれの国でもあったのでコマということばを用い世間に誇示した。箱根山縁起に箱根神社が駒形神社を奉祀するのは朝鮮から高麗大神を勧請したと記載しているのと同様である。このように、赤城の神は駒形の神とも言える。

坂上田村麻呂や源頼義・頼家父子も駒形神社を厚く崇敬し、武運折願成就した事実を知り、この奥州に栄華を築いた藤原氏も、駒形神社に崇敬の念を奉ずる。平泉より北上川を



駒形神社 御社殿内部





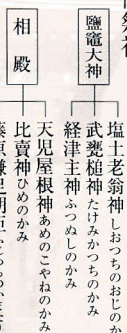
# 今なお多くの信仰を集める 武家ゆかりの陸中一の宮。



## 別宮 鹽竈神社

後冷泉天皇の御代（○五二年）源頼義・義家父子が安倍貞任を征伐しようとし、宮城県塩釜市の鹽竈神社に祈願し成就したので、凱旋の後水沢の地（現在の石田・大明神に鹽竈大神を勧請した。以来、当地方は塩釜村といわれ、また水沢市制（昭和二八年）の施行まで大字名に塩釜が残された。寛永六年（六一九年）初代水沢城主留守宗利氏が、当社を大修繕した。明和二年（七六三年）第七代城主留守村義氏は石田・大明神の地より現在地に遷座して境内を整備し、領内の守護神と崇め、別当及び社家をおき祭祀にあたらせ、当地方の一大名社とし、信仰をあつめた。安政六年（一八九九年）の大火により、全町ごとく焦土と化し、社殿も類焼したため、文久三年（一八六三年）第十代城主留守邦命氏が再興した。ことに本殿は戸内村の大名熊谷萬吉氏が上衣川村にあった直径七・八メートルの樺の巨木一本で仕上げた。今も駒形神社本殿として現存している。明治三六年、鹽竈大神は別宮春日神社に合祀し鹽竈神社とし、駒ヶ岳山頂より御神霊を鹽竈神社に奉遷し駒形神社とした。

### 御祭神



### 御利益

武芸上達、成績向上、受験合格

## 末社 山神社

田畑や山林を守る山の神・大山祇神と安産の神・木花開耶姫神が祀られている。現社殿は裏参道を登り詰めた外苑にあったが、昭和五十年十月、二五倍の寸法で復元され内庭の現在の地に遷座された。

### 御祭神

大山祇神 おおやまのみかみ  
木花開耶姫神 このはなうへひめのみかみ

### 御利益

商売繁昌、安産

## 水沢招魂社

明治四十二年（九〇九年）水沢公園内に水沢招魂社を設立し、戊辰戦争を始め日清、日露の戦いで戦死された英霊をお祀りした。以来、日支事変、大東亜戦争などを経て御祭神も増え、在郷軍人会により手厚く管理運営されていた。しかし、終戦後すっかり荒れ果てしまったので、昭和三十五年、駒形神社境内に社殿を御造営し遷座された。

### 御祭神

日清・日露戦争、支那満州事変、大東亜戦争で、我が国のため戦死された郷土出身の英霊 二〇九九柱

### 御利益

家内安全、国土安寧



神門前の手水舎

◀ 気仙郡稲子沢の長者より奉納された四つの塩炊き釜

## 陸中一宮 駒形神社 御由緒

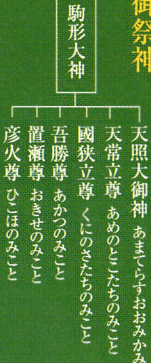
上古の代、関東に毛野氏（もうのうぢ）が台頭し、赤城山を霊山と崇敬し、赤城の神を祀つて上野平野を支配し、後に上毛野国と下毛野国に分かれた。上毛野・下毛野氏は関東に留まらず、勢力を北に延ばし、行く先々に祖國に習い、伏火山で、形のいい山を捜し出し、連山の中で一番目の高峰を駒ヶ岳又は駒形山と名付け、駒形大神を奉祀された。奥州の当地方にも及び、胆沢平野から雄姿を目にし、山頂に駒形大神を勧請し、駒ヶ岳と命名した。上毛野胆沢公という毛野氏の一族によるものであり、時は雄略天皇の御代（四五六年）であった。

当社は貞観四年（八六二年）從四位下に神階を進められたのは、陸奥国胆沢城を創建し征夷大將軍として蝦夷地を平定した坂上田村麻呂による崇敬の念の篤かった事から始まり、この鎮守府の度々の上奏によるものであった。

駒形という名称は、古く赤城神社をカラ社と呼んだ歌が残っている。コマをカラと歌った。当時の朝鮮は高句麗に都があり、高麗朝時代であり、文化伝来のあこがれの国でもあったのでコマというこばを用い世間に誇示した。箱根山縁起に箱根神社が駒形神社を奉祀するのは朝鮮から高麗大神を勧請したと記載しているのと同様である。このように、赤城の神は駒形の神とも言える。

坂上田村麻呂や源頼義・頼家父子も駒形神社を厚く崇敬し、武運祈願成就した事実を知り、この奥州に栄華を築いた藤原氏四代も駒形神社に崇敬の念を捧げた。平泉より北上川を隔て、東に望む秀峰東福山は駒形山ともいう。このことは峻険な駒ヶ岳を度々登拝することは困難をきたすこともあり、この山に駒形大神を奉祀したと考えられる。かくして、駒形神社の崇敬は華々しく、分社は東北各県より関東に亘り、その数、百余社に及んでいる。

### 御祭神



### 御利益

産業開発、交通安全、必勝祈願、方位除け、家内安全

### 駒形神社恒例の祭儀

○主な年中行事	
歳旦祭	一月一日
祈年祭	一月十七日
奉遷記念大祭（春祭）	五月三日
招魂社大祭	六月二日
奥宮登拝祭	八月一日
別宮塩釜神社祭（夏祭）	八月十日
例大祭（秋祭）	九月十九日
末社山神社祭	十月十二日
新嘗祭（新穀感謝祭）	十月二十三日
除夜祭	十二月三十一日
大祓式	（夏越の大祓）六月三十日 （年越の大祓）十二月三十日
月次祭	毎月日、十九日

### ご祈祷のご案内

● 神前結婚式 ご神前でお二人の堅い契りを取り交わしましょう。

● 安産祈願 妊娠五ヶ月戊の日にご参拝ください。

● 命名祈願 腹帯もご用意してあります。

● 初宮詣 お子さまのお名前から幸せを招きましょう。

● 七五三詣 男児三十日、女児三十三日の御参りが智わしです。お子様のご都合に合わせてお参り下さい。

● 厄 三歳男児（五歳男児）、七歳（女児）十月、十一月中受付。

● 厄 男子 二五歳、四三歳、四九歳、五五歳、女子 二五歳、三三歳、三七歳、四九歳、五五歳

● 年祝い 還暦祝（六十歳）、古稀祝（七十歳）、喜寿祝（七十七歳）、傘寿祝（八十歳）、米寿祝（八十八歳）、卒寿祝（九十歳）（算賀祭）

● その他 交通安全、家内安全、営業繁栄、競走馬安全、牛馬安全、心願成就、必勝祈願、合格祈願、除災開運、方災消除、無病息災、身体堅固、病氣平癒、胎児、慰霊祭、水子供養、旅行安全、神御清祓、人形魂抜き等諸祈願も執り行っております。

● 出張祭 地鎮祭・上棟祭・新宅清祓・解体清祓・井戸埋清祓・廊理清祓・伐採清祓・明神遷座祭等工事の無事安全と家内安全を祈る祭儀を奉仕いたします。